

和合万余騎其日由利羽川を折立交り人馬の
息を休めり秋田小野寺に加勢の礼使者を以て述
らる同七日多田を打立り前日所一宿より大山
岡幡守聞て麓城破り如地下人大山を跡々戸は
に味大梵寺より新形越前守を大將とてて而
余騎より加勢大梵寺尾陣に止る長大山より飽海
玄著の女童を左内江送りて大山岡幡新形越前
寺死に時大山岡幡角館勢のふりて首を玄著
に入るれ給ふ征盛公の床机より座敷を死にけり正
面を碯とす甲以筋金四ツサケ死に合門より附たり

征盛公除手を更せり大山をむ田口嘉兵衛寺取大
山の城焼跡に陳を構へ茂木隠明寺傳、鈴木寺より
百余騎を附て征盛公龜田江沖帰陳大梵寺に在
りし時陳は時長尾越後の信濃國木曾左馬頭北
康士山邑寛太郎が居城新名を攻る由聞及邑部
村崎等直に信濃江帰るに即秋田小野寺の加勢
陳場の福波一曰士軍出来小野寺の大將亦死是
の依て秋田小野寺降指三家の間加勢ふり文明
十年冬の辰より征盛公失例日十一年二月十三日逝去
秀盛公所舎り忠盛秋田押として淀川の城小千